

かまくらブックフェスタ ホームページ http://www.minatonohito.jp/kamakurabf/ 主催・問い合せ先港の人

〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜 3-11-49 tel 0467-60-1374 fax 0467-60-1375 mail kamakura@minatonohito.jp 2019年 11月2日(土曜) 11月3日(日曜・祝日) 両日10時から18時

本を読むことと 本をつくることが出合う 本のお祭り。

規模の小さな出版社が集まり 選りすぐりの本を 直接販売します。

参加出版社

牛若丸タバブックスUTSUWA SHOKEN+text, (テクスト)鐵線書林+ktrECRIT (エクリ)夏葉社

 北と南とヒロイヨミ
 編集工房ノア+ぽかん編集室

 共和国
 りいぶる・とふん+みずのわ出版

群像社 港の人

新曜社 アンドサタデー 珈琲と編集と

同時開催イベント

●11月2日 14時半~16時

講演「堀江敏幸が語る山田稔文学の魅力」出演:堀江敏幸

●11月3日 14時半~16時

講演「AIR LANGUAGE――さらなる空中の本へ」出演:平出隆 同日開催 «air language program 2019» 展 10 時より 13 時半

毎年秋に開催してきたかまくらブックフェスタ、昨年は京都でおこないましたが、2 年ぶりに鎌倉に帰って参ります。広い庭のある古民家で、よい本に出合うひとときを。会場ではコーヒーと軽食も販売いたしますので、ごゆっくりお過ごしください。ご来場をお待ちしています。

イベント 講演&展示

11月2日(土曜)

14 時半から 16 時(14 時開場)

講演 「堀江敏幸が語る山田稔文学の魅力 |

出演:**堀江敏幸**(作家、仏文学者)

作家・堀江敏幸さんを鎌倉にお迎えし、山田稔さんの文学について語っていただきます。堀江敏幸さんは『別れの手続き 山田稔散文選』(みすず書房、2011年)の解説において「山田稔が固有名詞であると同時に、ひとつの文学ジャンルであることは、もはや疑いようがない」とし、散文芸術とも言われる山田稔文学の真価を繙かれました。

1930 年生まれである山田稔さんは、近年も『天野さんの傘』『こないだ』(編集工房ノア、2015年・2018年) などにおいて、独自の文学をますます極めていらっしゃいます。読者を深く魅了してやまない、おふたりの作家の「声」に触れる時間をもちたいと思います。

● 堀江敏幸 (ほりえとしゆき)

作家、仏文学者。早稲田大学教授。『おぱらばん』(三島由紀夫賞)、『熊の敷石』(芥川賞)、『雪沼とその周辺』(谷崎潤一郎賞)、『正弦曲線』(読売文学賞)、『曇天記』『オールドレンズの神のもとで』『傍らにいた人』など著書多数。

11月3日(日曜・祝日)

展示: 10 時から 13 時半 講演: 14 時半から 16 時(14 時開場)

講演 「AIR LANGUAGE――さらなる空中の本へ」

出演:**平出隆**(詩人)

同日開催 《air language program 2019》展

かまくらブックフェスタでは、2011年の第1回より詩人の平出隆さんに講演をお願いしてきました。初回は2010年秋に創刊された《via wwalnuts叢書》についてのお話を伺い、2017年には「空中の本へ」と題された、きわめて刺激的な書物論を展開していただきました。昨年は《言語と美術――平出隆と美術家たち》展(DIC 川村記念美術館)が開催され、河原温、加納光於、若林奮ら美術家たちとの対話に呼応する、書物空間論としての《Air Language Program》が、新たな詩作としても示されました。この展示を経て、さらに強靭に実践されつつある書物論について語っていただきたいと思います。

同会場で講演前に《言語と美術》展関連の映像を上映いたします。また会場では、 新刊の《via wwalnuts 叢書》美術論シリーズを販売いたします。

● 平出隆 (ひらいでたかし)

詩人、作家。多摩美術大学教授、多摩美術大学図書館長。近著に『私のティーアガルテン行』『言語と美術――平出隆と美術家たち』など。《via wwalnuts 叢書》《crystal cage 叢書》《ppripo》など独自の出版プロジェクトをもつ。

イベント会場は、由比ガ浜公会堂(本会場より徒歩1分)です。 講演入場料は、それぞれ 1500 円です。

参加ご希望のかたはメールか電話で予約をお願いします。定員 50 名です。

入場料は当日受付にてお支払いください。

3日におこなう展示は10時から13時半。どなたでも無料でご覧いただけます。

予約方法:

メール kamakura@minatonohito.jp

お名前と希望人数を明記ください。

2~3 日中に、確認のメールを返信します。返信がない場合はお問い合わせください。

電話 0467-60-1374 港の人

土日は不在の場合があります。その際はおかけ直し下さい。

参 加 出 展 社

牛若丸

ません。 試みている、デザインの歴史探偵、松田行正が主宰するミニ出 ウトを楽しみつつページをめくるという、それがまさに体験そ 手で重さを、紙の手ざわり・匂いを感じ、文字組み、レイア ネットでテキストを読んでも、あまり「体験」という感じは のものだからでしょう。そんな本の体験を拡張すべくいろいろ 読書は、読書体験ともよばれたりしますが、電子書籍やインター それは、紙の本が、ただテキストを読むだけではなく、 「本は明るいおもちゃ」なのです。

UTSUWA SHOKEN 十 text, (テクスト)

冬樹によるブックデザイン。今回は新たに text, が企画制作 伝えたいことをひとつずつ形にしています。祥見知生著『うつ 作、出版活動を行うユニット。人やものごととの関係を大切に、 橋詰冬樹が、東京を拠点としてカレンダーや本などの企画、 うつわのギャラリー。地元・鎌倉、小町と御成町の二つの店舗 うつわ祥見は二○○二年に鎌倉の高台の一軒家でスタートした わと一日』(港の人刊) 行っています。text,はディレクター橋詰ひとみとデザイナー で作家もののうつわを伝えています。うつわに関する書籍の執 た二〇二〇年度版カレンダー『ODEUR』を紹介します。 オリジナルレーベル TABURU BOOKS の出版も や『うつわかたち』(ADP 刊)は橋詰

年にはじめて「かまくらブックフェスタ」に参加させていただ 野亜喜良挿画によるシリーズの第二弾『葦』(詩:レールモントフ テランの域となりました。一〇月下旬に刊行したばかりの、字 在庫僅少本や重量三・八キロの『ロベール・クートラス作品集 エクリは詩画集を中心とした出版を手がけています。二〇一二 ある画家の仕事』(上下巻・総頁六〇〇) もご用意します。 :前田和泉)をぜひご覧ください。また、書店に並びにくい 昨年の京都恵文社、そして今年の in 書店。名実ともにべ

北と南とヒロイヨミ

りながら、 物を販売します。『北と南』は、紀行文、詩、俳句、小説、エッセイ、 じ込めた雑誌です。ヒロイヨミ社は、言葉と活字の魅力をさぐ 本をめぐる小冊子『ほんほん蒸気』第五号と、それぞれの刊行 かろやかな〈本〉として小冊子を制作しているリト 写真など、世界の様々な場所からの声と光を封

ルプレスです。

共和国

の社会にむけて世界を占拠してゆくことになるので、 界だけを唯一の世界とするのではない、別の世界が描かれうる でいます。既刊四五点。本には、 樹立したワンオペ出版社です。代表兼奴隷の下平尾直(しもひ とってください。そして、みなさんの、みなさんによる、みな に移動することで、この極零細出版社が、着実に、まだ見ぬ別 ちらの手許にある本が、わたしの手許を離れてみなさんの本棚 はずだ……ということを実践するべく出版社をやってます。こ らお・なおし、五一歳、好きな言葉は「もっと飲んでください」)が営ん さんのための本の共和国を! 書物で世界をロマン化します」をモットーに、二〇一四年に いま自分たちが生きている世 ぜひ手に

ヴァシの少女の目を通して語られる『シェニヤル村の子どもた パクトに伝えるユーラシア文庫のシリーズも十三巻まで出て 中治療室の手紙』などこの一年の新刊を中心にロシア界隈の短 びていない社会派の戯曲です。ロシアのなかの小さな国チュ ともに消え去ったと思われていたゴーリキーの『どん底』新訳 くて軽めの文学を並べてお待ちします。 ち』、ソ連崩壊後からドイツで活動するロシア語劇作家の『集 「ロシア文学の群像社」もちょっと社会派やってます。ソ連と も貧富の二極化がすすむ格差社会の中で読み直すとまったく古 ヨーロッパとアジアにまたがるユーラシアの社会や文化をコン

新曜社

すが、「専門書」と「一般書」の区別ってなんだろう、とか「ク 心理学、文芸評論など、幅広い分野の専門書を刊行してきまし 今年で五○周年を迎えた小さな版元です。哲学、芸術、社会学、 本を眺めては、 などと考えたり、はるか昔に刊行され、版を重ねている弊社の 温又柔さんの『「国語」から旅立って』などが注目されています。 パン!セ」の刊行も始まり、岸政彦さんの『はじめての沖縄』、 た。昨年より一般向けのノンフィクションシリーズ「よりみち リティーク」と「クリエイション」の違いってあるんだろうか? いまこれを書いているのは入社二年目の新米年寄編集者なので 本を売るのが大好きです。 小さく強くかつ柔軟にあることの意味を考えた お気軽にお声かけください。

タバブックス

二〇一二年にひとりで立ち上げた出版社です。「おもしろいこ

知、疑問に目をとめ、 しいはたらき方や生き方に関する書籍が増えてきました。タバ 本に……といったことを想像してつけました。さまざまな声、 ジのほか、ひとりなので著者関係者やみなさんのお力を束ねて ブックスの名前の由来ですが、タバ=束。 仕事人のためのざっし『仕事文脈』を創業時から発行、 ルで気になるテーマの本を刊行しています。すべてのゆかいな モットーに、人文・文芸・芸術・コミックなどさまざまジャン くお願いいたします。 とを、おもしろいままに本にして、きもちよくお届けする」を 本を束ねていきたいと思います。 本の束(つか)のイメー あたら

鐵線書林 + ktr

を予定。 鐵線書林は、二○一七年発足以来ほぼ毎週開催のロシア詩研究 刊状態からの再始動を目指します。既刊に加え新刊数点の販売 Eyelet》という無二の形態に綴じてきた歌人・結崎剛による 主義の詩人たちを独自の視点と技術で訳し、《Study in 本の完全自主製作で『ぐらごおる』を創刊。主にフランス象徴 ktr の力も借りて、かまくらブックフェスタを機に約一年の休 会を母体に、その成果を纏める媒体として、自宅印刷+組継ぎ

夏葉社

ものもあります。今年の九月には鎌倉、葉山を愛したアーティ ツコツ本をつくっています。なるべくきれいに本をつくりたい 社です。「何度も読み返される本」をモットーに、ひとりでコ と思っていますが、うまくいったものも、うまくいかなかった 今年で一○周年を迎えました、二○○九年設立の吉祥寺の出版 ストである永井宏さんのアンソロジーを刊行いたしました。 ひ見に来てください。しゃべりに来てください。 ぜ

編集工房ノア 十 ぽかん編集室

の出版のラインアップをご覧ください。最新刊は『山田稔自選 わせる」と言われましたが、じっくり、ゆっくり「遅れ時計」 集1』。「ぽかん」とノアは、 心がけ今年で四十四年。鶴見俊輔さんが「ノアは十九世紀を思 編集工房ノア」は大阪にある出版社です。関西の文芸出版を 山田稔さんでつながります。

さんの『門司の幼少時代』を刊行します。かまくらブックフェ さんにつけていただきました。今秋、 「ぽかん」は不定期で発行する個人雑誌です。雑誌名は山田稔 スタに間に合うかぎりぎりのところ! お楽しみに! ぽかん編集室より山田稔 いや、 必ずや持参いた

りいぶる・とふん 十 みずのわ出版

「つるつるすべるげんしの上へ/ぼくたちが一心になって書いしている。その戦いの横に、子どもの詩をひとつ置いてみよう。 たこの詩集/ガリガリいらやすりばんの上で/てっぴつを進ま れは記憶でも記録でもない。紙の上に文字・図を刻んで書物と みずのわ出版の主張はこうである。ネット・スマホ全盛の昨今、 書物製作の共闘である。 る時出るか出ないかとまっていたが/この美しい詩集が出来た も/げんしへ書いたにまけず/いっしょうけんめい書いた/す くみずのわ出版は、書物という文明最後の砦に籠って孤軍奮闘 ネットで読めるものは、如何にきちんと書かれていようが、そ **ぅ詩集/表紙も、はじめのことばも/六年生の男子のをのせた** して後世に残すことが出版文化。瀬戸内の周防大島に拠点を置 /ぼくたちが書いてだしたが出なかった/ げんしへ書かない人 していった/三日間かかって作り上った/この「おち葉」とい (『きりん』 一九五一年三月号) りいぶる・とふん + みずのわ出版は、 、色づきの表紙/うつくしい詩集。」(小五男子「詩集が出来上った」

港の人

がしている。それは書物に宿すほんとうの詩の言葉を発見する り、舟も水が洩れそうになるけれど、理念とする書物の姿をさ りちに、おのずと舟のかたちが見えて来た。この先は霧中にあ ことに違いないと、やせがまん、海をわたる無常の風がここち **乂芸書が中心になっている。出会える人の言葉をたどっていく** · イ集を刊行させていただいたが、いまはもっぱら句集や歌集、 こは、二十三年前港の人が創業したときに保昌正夫先生からい 巨き舟ならずとも良し港の人/佳き書積みて漕ぎつぎてあれ」 にだいた餞のことば。当初は学術書を手がけながら、詩集やエッ い。 かまくらブックフェスタに、ぜひお出かけください。

シコーヒ ーと軽

編集ユニット。「毎日に、土曜日を。」のコンセプトで、ゆるや 逗子で土曜日だけの珈琲店「アンドサタデー」を営む、夫婦のアンドサタデー 珈琲と編集と 催する。 のガイドブック「雑誌逗子」の企画編集も担当し、今年の一一ンドサタデーの SUP 教室」も主宰。街の編集社として、逗子 「深夜食堂」「日曜商店」「親子茶論」「アンドサタデーの大学」「ア らしが心地よく楽しくなるように編集している。珈琲店の他に、かな気持ちになれる場やデザイン、イラストを通して、街の暮 月一六日(土)には初開催となる「逗子葉山海街珈琲祭」も主